

「池守田中家史料調査事業」実施概要

事業概要

史跡狭山池に附指定された池守田中家旧宅に保管されていた資料として、大阪府立狭山池博物館に寄託されている約12,000点に及ぶ古文書群「池守田中家文書」が従来知られていました。この古文書群は、すでに目録が刊行され、公開などの活用もおこなわれています。

平成30年度から大阪狭山市教育委員会で実施した池守田中家の文化財調査において、新たに大量の資料を発見しました。この資料群は古文書以外にも、古写真や生活用具など多岐に及びます。

本事業では、池守田中家の新出資料とこれまで未整理であった資料の調査を進めています。令和6年度は、資料の調書作成および確認修正を進めるとともに、2回の有識者による会議と12日間の調査をおこないました。調書は令和6年度末現在で、14,352点の古文書、800点の古写真、657点の生活用具について作成しています。



池守田中家調査会議風景（第8回）



令和の調査で見つかった什器（挟箱）

資料紹介 明治初期における池守田中家の親類関係

—明治二年九月—五日付「親類書」の紹介—

はじめに

池守田中家文書の特徴の一つとして、幕末期から近代初頭にかけての書状・書簡類の量が非常に多いことがあげられる。その多くは、田中家の人々と親類がやり取りをしたものである。そのため、田中家がどのような家と親類関係を結んでいたのかは、当該期の田中家史料を整理する上でも、活用する上でも基本的な情報となる。そこで本稿では、今回の池守田中家史料調査で新たに発見された明治二年付の「親類書」の紹介を兼ね、当時の田中家の親類関係について整理しておきたい。

1. 史料の翻刻と貞三郎の略歴

まず、史料の翻刻を掲げる。

明治二年九月	親類書	田中徳兵衛
姉	和州七条村矢追典膳ノ伯父 矢追主膳 妻	
姉	森田三郎左衛門 妻	
当人	貞三郎	
弟	弁六	
母里	狭山藩中 植田兵右衛門方へ養子	
親類	高槻家中 豊田専右衛門 堀内多門	
同	丹州笹山家中 吉原善右衛門	
同	狭山家中 田中源三郎	
同	河内白井村 松倉庄兵衛	
同	更池 田中清右衛門	
同	石川郡中津原 前田忠之進	
同	泉州日根郡湊 平松九左衛門 当時徳兵衛妻出所	
巳九月十六日下仲人		
南法禪寺村勝治郎親類書		
貫二参り二付右之通認相渡置		

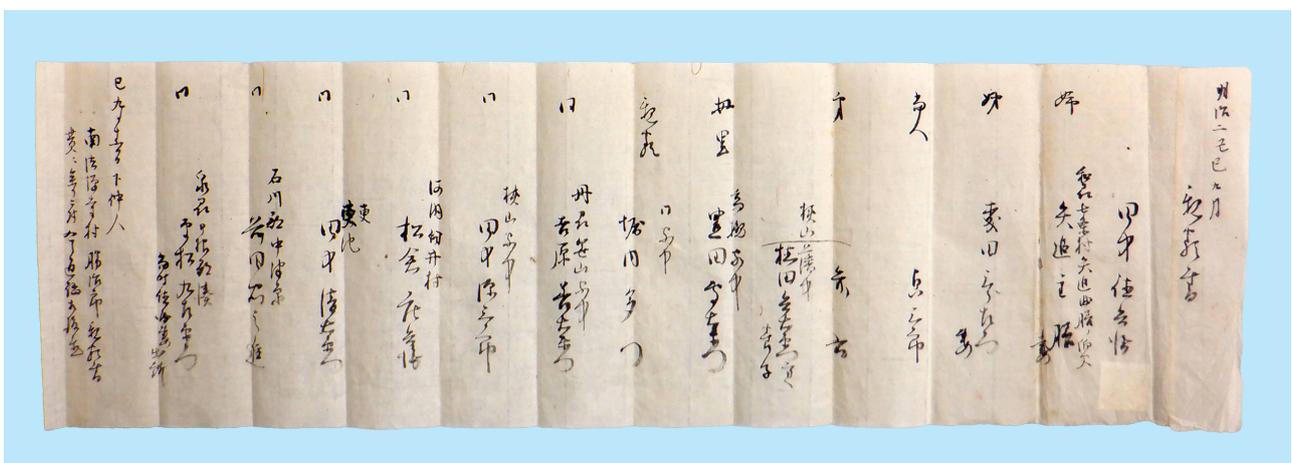


写真1 「親類書」 令和 23 箱〔令 23 - 12 - 7〕

本史料は明治2年(1869)に南法善寺村の勝治郎なる人物に求められて、当時の田中家当主徳兵衛が認めた親類書の控えである。この親類書の対象であり「当人」となっている貞三郎は、徳兵衛の弟にあたる人物である。まず、貞三郎の略歴から確認していく。

貞三郎は、田中家9代目当主徳兵衛永秀の三男⁽¹⁾として天保12年(1841)6月24日に生まれた。安政6年(1859)4月26日に、南都の金春式部を仲人として南都石井九郎兵衛家に養子に入っている。石井九郎兵衛家は、現在の奈良市椿井町に居を構え、代々奈良町の惣年寄を世襲した家である⁽²⁾。翌年には養父である九郎兵衛が没し、貞三郎は九郎兵衛居正と号して石井家15代目当主となった。

明治元年(1868)4月に石井家と離縁して田中家に戻るが、明治4年(1871)2月には平野流町(大阪市平野区)の福井治左衛門家の養子となる。しかし、同13年(1880)6月には都合により分家した。また、時期は不明であるが、福井家に養子入りして以降に、喜三郎と改名している。没年は不明である⁽³⁾。

池守田中家文書の中には、管見の限り25点の貞三郎発給史料を確認できる⁽⁴⁾。年未詳の書状・書簡が大半を占めるため、彼の動静を時系列に整理することは難しいが、多くは養子先から、家族の動向を気遣ったものや自身の近況を伝えるものである。

2. 貞三郎の兄弟と縁付

貞三郎の父である徳兵衛永秀には10人の子どもがいたが、明治2年(1869)時点で生存しているのは、本史料に記載がある5人である⁽⁵⁾。貞三郎以外の4人について、縁付関係を簡単に整理しておく。

兄であり当時の田中家当主であった「徳兵衛」は、10代目池守を務めた徳兵衛永禎である。永禎は安政5年(1858)に和泉国日根郡中庄村湊(泉佐野市)の平松九左衛門の娘である久(のちに保と改名)と縁付している⁽⁶⁾。

「矢追主膳妻」は、長姉であるおかつである。安政5年に大和国七条村(奈良市)の矢追典膳の弟である寿治(琢磨)を婿に迎え入れ、田中家の別宅を相続している。矢追家は、大和小泉藩の家中である⁽⁷⁾。

「森田三郎左衛門妻」は、次姉であるおふじに当たる。嘉永7年(1854)に河内国古市村(羽曳野市)森田三郎方へ嫁入りしている⁽⁸⁾。森田家は古市村の庄屋で、大津代官の下で郡中惣代を務めた家である。

弟「弁六」は、文久4年(1864)に狭山藩家中の植田兵右衛門方に養子に入り、藩主北条氏恭の近習として活躍した人物である。狭山藩廃藩後も北条家家僕として氏恭に仕えたが、明治6年(1873)に植田家と離縁し田中家に戻り、明治13年(1880)に堺の商人である鳥井駒吉の妹の婿養子となっている⁽⁹⁾。

3. 親類の家

兄弟に続いて「母里 高槻家中 豊田専右衛門」と書き上げられている。貞三郎の母は、高槻藩家中の豊田専(千)右衛門妹のおふきである。田中家の史料によれば、豊田専右衛門は幕末期に高槻藩の家老を務めたとある。

続いて、「親類」として7名が書き上げられるが、「同(高槻)家中 堀内多門」「丹州笹(篠)山家中 吉原善右衛門」とある堀内・吉原の両家は、「母里」である豊田家の縁者である。系譜史料のおふきの項を見ると、「右ハ摂州高槻家中御家老職ニテ、御嫡女者丹波笹山之藩吉原善右衛門と号ス、八百石ニテ御家老職也、二女ハ母君、三男豊田家相続ニテ四百石ニテ永井家老職、四男多門義堀内家相続ニ而永井家御中老職也」とある⁽¹⁰⁾。これによれば、吉原家は丹波国篠山藩の家老を務める家で、善右衛門におふきの姉が嫁入りしていた。一方、堀内家は高槻藩の家中で、おふきの末弟が養子となり、多門と名乗り家督を継いでいた⁽¹¹⁾。

次の「狭山家中 田中源三郎」とある田中家は、池守田中家と祖を同一とする家である。田中家初代の孫左衛門の長男である吉兵衛(後に孫左衛門)の家系が、武士身分となり代々狭山藩に仕え、次男である吉左衛門の家系が村の庄屋と池守の職を継承した。吉左衛門は3人の子どもにそれぞれ、村の庄屋と池守の職を分割して継承させているが、吉左衛門の三男の家系が池守田中家となった⁽¹²⁾。

「河内白(碓)井村 松倉庄兵衛」とある松倉家は、河内国古市郡碓井村(羽曳野市)に所在し、備前島原藩主の松倉氏に連なる家と伝わる。松倉家と池守田中家の関係が早く史料に現れるのは、9代目池守徳兵衛永秀の母おやすが松倉家より嫁入りしているものである⁽¹³⁾。また、永秀は池守田中家の家督を継ぐ前に、一度松

倉家に養子に出ている⁽¹⁴⁾。

「更池 田中清右衛門」とある田中家は、河内国丹北郡更池村（松原市）の庄屋であり、文政の頃には、西本願寺門跡の来訪を受けたり、天保・弘化の頃には、名字帯刀を許されたりした家である。池守田中家と更池田中家の関係の始まりは明らかでないが、管見の限りでは、7代目池守徳兵衛永成の伯母が嫁入りしていることである⁽¹⁵⁾。

「石川郡中津原 前田忠之進」とある前田家は、河内国石川郡中津原村（千早赤阪村）の大庄屋を務めた家である。前田忠之進には、池守田中家から永秀の姉であるおとみが嫁入りしている。忠之進は下館藩で、御勝手向取扱を勤め、その後、御中小姓格代官を勤めた⁽¹⁶⁾。

「泉州日根郡湊 平松九左衛門」は、徳兵衛永禎の妻おやすの実家である。平松家は、和泉国日根郡中庄村湊で海運業を営んでいた商家である。屋号を「平九」といい、代々跡取りが九左衛門を名乗った⁽¹⁷⁾。

4. おわりに

非常に簡単ではあるが、「親類書」から明治初期の池守田中家の親類関係について記述した。相手先の家を見ていくと、村の大庄屋・庄屋クラスの農民、各藩に仕える武士、商家と多岐に及んでいることが分かった。この点、狭山池の池守であり、所在する池尻村の庄屋であり、狭山藩の藩士を務める家であった池守田中家の多様性が反映されているのではないだろうか。

注

- (1) 系図上では三男となるが、次男である信之助が早世しているため、史料上では次男として記述されること多い。
- (2) 「第一章第二節 奈良町の形成とその支配」（『奈良市史』通史3、1988年）
- (3) 貞三郎の略歴は、「田中徳兵衛代々続記」（池守田中家文書9146）および「田中益太郎血縁親類書記録」（池守田中家文書10724）を主に参照した。また、管見の限り、貞三郎発給の史料で最も時代が下るものは大正4年（1915）である。なお、煩雑さを避けるため、本稿では改名後の記述についても貞三郎と記載する。
- (4) 既調査分を含む。
- (5) 詳細な系図については、『池守田中家文化財調査報告書』（2021年）参照。また、各人の没年については、山脇大輝「池守田中家の墓地と墓石」（同書）でおこなった、池守田中家の位牌と墓石の整理を参照。
- (6) 徳兵衛永禎とその縁付については、山脇大輝「狭山池池守田中徳兵衛永禎の基礎的研究」（『大阪府立狭山池博物館 研究報告』12号、2001年）を参照。また、永禎は4度改名をしているが、煩雑になるので本稿では統一して永禎と記載する。
- (7) 注3前掲史料参照。「親類書」（池守田中家文書8830）。
- (8) 注3前掲史料参照。
- (9) 史料では弁六郎と記載される場合もある。弁六については、拙稿「資料紹介 慶応三年十一月十二日付 植田弁六郎書状」（『令和4年度 池守田中家史料調査事業実施概要リーフレット』、2023年）に略年表を掲載している。
- (10) 注3前掲史料「田中徳兵衛代々続記」。
- (11) 注3前掲史料「田中益太郎血縁親類書記録」。
- (12) 藪田貫「田中家の成立と伝来」（『池守田中家文化財調査報告書』2021年）
- (13) 注3前掲史料「田中益太郎血縁親類書記録」。
- (14) 注3前掲史料「田中徳兵衛代々続記」。
- (15) 「親類書」（池守田中家文書10743）。
- (16) 注3前掲史料「田中益太郎血縁親類書記録」。
- (17) 北林千鶴「泉州日根郡湊浦廻船について」（『泉佐野市史研究』第9号、2003年）

全体の事業期間 令和3年4月から令和8年3月までの5か年

事業体制 事業主体：大阪狭山市教育委員会 事業組織：教育部生涯学習グループ
学識経験者による調査・指導及び文化庁の指導・助言のもと調査を進めています。



本事業は、文化庁地域活性化のための特色ある文化財（美術工芸品）調査・活用事業国庫補助金の交付を受けて実施されています。